# 石巻専修大学

●「石巻専修大学」ホームページ● https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/



石巻専修大学
広報係
〒986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717（直）


最新の情報は大学HPで。

## 人間学部　5人が合格

### 2021年度教員採用試験

今年度の教員採用試験に、人間学部4年次の千葉彩有花さん（宮城県常盤木学園高）、佐々木翼さん（福島県会津高）、阿部竜太さん（宮城県石巻西高）、今田悠斗さん（山形県天童高）、大坂朋也さん（宮城県古川学園高）が合格した。努力を重ね、夢をつかんだ5人は来年4月から憧れの教壇に立つ。

今田さんは山形県小学校、ほかの4人は宮城県小学校の採用となる。

入学当初から女子競走部の活動と教員採用試験対策を両立させてきた千葉さんは「一人一人を大切に、楽しい学級を作れる教員になりたい」と意気込みを語った。

選択肢を広げるために就職活動も並行して行ってきた佐々木さんは民間企業からの内定も得たが、「子どもたちの成長を近くで実感できるところに魅力を感じた」と、教職に進むことを決めた。

阿部さんは「先生方の指導のおかげで、面接で自分の思いをうまく伝えることができた」、今田さんは「大学に入って学ぶ楽しさを知った。試験では時事問題が多く出題され、特に有見正敏特任教授の対策講座が役立った」と、それぞれ指導教員に感謝の言葉を述べた。

教員採用試験・公務員保育士試験の合格者と指導教員

### 保育士試験は4人

今年度の公務員保育士試験に人間学部4年次の4人が合格した。氏名は次の通り（敬称略）。

金澤沙彩（宮城県中新田高）▽堀籠はな（宮城県古川黎明高）▽藤井晴菜（宮城県登米高）▽熊谷早紀（岩手県一関第一高）。

今回合格した9人は全員、本学の保育士・教員養成センターが主催する試験対策講座を受講。各種セミナーなどに参加するとともに、担当教員による学習支援や指導を受けながら実力を磨き、採用試験を突破した。

## 国内留学を終えた5人　専大での体験を報告

本学の国内留学制度を利用して、4月から神奈川県川崎市にある専修大学生田キャンパスで学んでいた経営学部3年次生の5人が約4カ月のプログラムを修了した。

今年度の国内留学に参加したのは、皆川昂太さん（宮城県鹿島台商業高）、佐々木優衣さん（宮城県桜坂高）、藤崎晴人さん（宮城県鹿島台商業高）、辻本琴美さん（宮城県古川学園高）、佐藤響さん（岩手県一関学院高）。

皆川さんは印象に残った授業として、英語で資料作成やプレゼンを行うグローバルリテラシ演習を挙げ、「国内留学に行かなければ経験できない学びが得られた」と話す。授業やゼミに加えてインターンシップなどにも参加した佐々木さんは、「目的を明確にしたうえで国内留学に臨むことが大事」と後輩にアドバイスする。

専修大学での学生生活を振り返り、授業内容や留学中の過ごし方について語った5人の動画をISUムービーで公開している。国内留学に興味がある学生はぜひ参考にしてほしい。

ISUムービーで公開中

## 骨格標本展示・製作室を開設

尾池守学長（右）に展示物について説明する四釜さん

学生会館2階に骨格標本展示・製作室が開設された。辻大和准教授の指導のもと、学生有志が製作したニホンジカの全身骨格標本をはじめ、有害駆除されたツキノワグマやイノシシの頭骨、珍しいヒヨケザルの全身骨格などを間近で見ることができる。

辻研究室では現在、「石巻圏のロードキルの現状」をテーマに研究を行っており、交通事故死した動物の頭骨や、学生が作成した石巻市内の動物の交通事故マップも展示している。

標本を製作した四釜佑規さん（理工4・福島県原町高）は、「骨を組み立てることでシカの体の仕組みを理解することができた。この学びを生かして、将来は人間と動物の共存に関わる仕事に就きたい」と話した。

## 陸上養殖設備を整備

1号館の南側敷地に二つの大型水槽を持つ閉鎖循環型の養殖設備が整備された。10月に計1000匹のギンザケの放流が行われ、角田出教授が取り組む、再生可能エネルギーを使った低コスト陸上養殖の研究に活用されている。

陸上養殖は、海面養殖と比べて気象や感染症・寄生虫によるリスクが低く、水産物の安定供給につながる。一方、施設稼働に多くの電力を使うためコスト負担が大きく、採算性に課題を持つ。研究では、キャンパス内にある太陽光発電や風力発電の設備を活用することでコストをどこまで抑えられるかも検証していく。

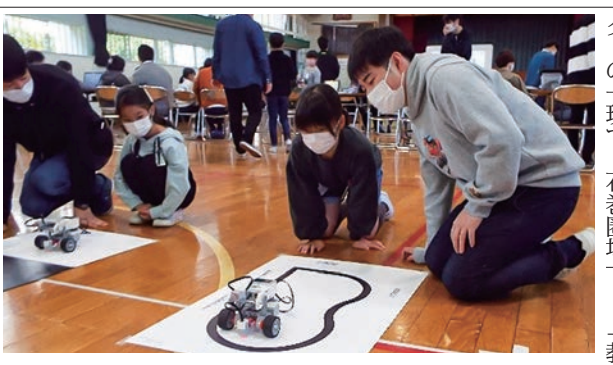
養殖中のギンザケを観察する角田教授（右）と学生たち

## 経営・工藤ゼミ × 人間・横江ゼミ
## 小学校でロボットプログラミング教室

経営学部の工藤周平ゼミと人間学部の横江信一ゼミが㈱富士通コンピュータテクノロジーズの元社員有志による「家族ロボット教室の会」と連携し、10月28日に東松島市の小学校で「ロボットプログラミング教室」を開催した。

この教室は本学が取り組む高大産連携プロジェクトの一環で、石巻圏域の小学生とその保護者を対象に行ってきた。しかし、小学校でプログラミング教育が必修化されたことを受け、今年度は東松島市立大塩小学校4年生の正課の授業として実施した。

当日は、事前にトレーナー研修を受けた学生24人が参加。小学生21人をサポートし、自立型ロボット「教育用レゴマインドストーム」を使い、ロボットの組み立てやプログラミング、走行レースを一緒に楽しんだ。


子どもと一緒にプログラミングしたロボットの動作を確認する学生

瀬ケ沼翔太さん（経営4・宮城県古川黎明高）は「子どもたちに対して答えを出しすぎず、ヒントを出すことを心がけた。トレーナーとしてうまくサポートできたと感じている」と話した。

## いしのまきSDGsパートナーに登録

石巻専修大学が9月30日付で「いしのまきSDGsパートナー」に登録された。

同制度は、2020年7月に内閣府から「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」に選定された石巻市が、市内の企業などと連携してSDGsの普及啓発を推進するために制定。現在、50を超える企業・団体・個人事業者などがパートナー登録している。

本学では今後、教育研究や社会連携活動を通じてSDGsの普及啓発や目標達成に積極的に取り組んでいく。

## 2教員が報告
### IS研究発表会

2020年度IS奨学研究員研究発表会が10月21日に開かれ、鈴木英勝理工学部准教授と佐藤平国経営学部助教が1年間の研究成果を発表した。

同研究員は、石巻信用金庫から奨学研究費助成金を得て、地域の産業・経済の振興に寄与する研究を行う。鈴木准教授はマサバに寄生するアニサキス類幼虫の電気刺激法による無害化、佐藤助教はコロナ禍におけるメディアの影響力と消費者行動に関する研究を行った。

2021年度IS奨学研究費贈呈式も併せて行われ、石巻信用金庫の明石圭生理事長から尾池守学長に目録が渡された。

## サイクリング愛好会　イベント運営に協力

サイクリング愛好会が、10月16日に行われた「松島基地ランウェイライド2021」（主催＝宮城県東松島市・石巻圏観光推進機構）に運営スタッフとして協力した。

航空自衛隊の松島基地の滑走路を自転車で走る恒例のイベントで、約2000人のサイクリストが参加。愛好会の学生7人と部長の梅山光広教授、坂田隆名誉教授は、全長3・4キロのコースを参加者と一緒に走行し、コース変更の声がけや故障時の対応などを行った。

戸松友輝代表（理工2・宮城県東北高）は「雨の影響が心配されたが、事故なく終えられて良かった。愛好会の活動を通じて、これからもサイクリングのさまざまな楽しさを体験したい」と話した。

参加者の安全のために奮闘したサイクリング愛好会